

いなかのりんじん

あぐろげいとーん

編集：九州教区教会協力委員会

「あぐろげいとーん」

教会協力委員会委員長
深澤奨（佐世保教会）

のうなんかしょう

「里山資本主義」（角川書店）という新書が最近話題のようで、本屋さんには平積みされています。読みますと、これがほんとに面白く、元気の出る本でした。グローバル経済から忘れ去られ、マネー資本主義から取り残されたような田舎の町が、発想の転換ひとつで、加えて志とアイデア次第でめざましく生き返っていく様子取材した本です。書名の【里山資本主義】とは「かつて人間が手を入れてきた休眠資産を再利用することで、原価0円からの経済再生、コミュニティー復活を果たす現象」と説明されています。読み進む内に、九州教区の諸教会が置かれている地方都市や片田舎の町々にも生かすことができることがたくさんあると思われました。

この本に登場する広島県の山間地、庄原市に住む和田さんは、「私はね、のうなんかしょうなんです」と自己紹介します。「脳軟化症」とは脳梗塞の別名ですが、その意味ではありません。共通語で「ねえ、何かしようよ」を僕の故郷でもある広島では「のう、なんかしょう」と言うのです。彼は仲間が集まるたびに「のう、なんかしょう、なんかしょうや」と言って、新しいこと楽しいことをし始め、仲間を引きずり込んでいくというのです。

この和田さんのエコストーブ普及の取り組みをはじめとして、本の中で紹介される事例の一つ一つは、田舎だからこそ可能なことであり、それは九州教区の諸教会にも大いに参考になり、たくさんの方のいい気づきを与えるだろうと思います。

今期の教会協力委員会は、従来の互助献金や緊急援助金献金の呼びかけとその分配に関わる働き以外にも、なし得ることを模索しながら歩んでいきたいと話合っています。たとえば各地の物産バザー。奄美の物産などはもうおなじみですが、その他にもお手製の最中を作り続けている教会、会堂建築の資金集めにワカメを売っていた教会など、「名物」をお持ちの教会は案外たくさんあるでしょう。教会員の中に何か特殊な技術をお持ちの方がいらっしゃる教会もあるかも知れません。有田焼の陶芸家でもある某教会信徒の方には、骨壺を作って教区の互助のためにご協力いただけないかと持ちかけたりもしています。そうした名物の品物や技術を持ち寄って教区の集会の折にバザーを催せば、楽しくもあり、元気やさらなるアイデアが湧いてくるでしょう。おまけに売り上げの一部を互助献金としていただければ、互助制度の充実も図れるというものです。

教会補修キャラバンなんていう企画も模索しています。大工仕事や機械の修理が得意な教師や信徒さんでキャラバン隊を組み、困ってる教会を回ってお手伝いをする。これも立派な互助でしょう。

ちなみにわたしは教会の裏庭でニホンミツバチの養蜂をしています。多くの西

欧の修道院も養蜂を営んできましたが、それはさほど手もかからず、うまくすれば蜂蜜と蜜蝋で年間数十万円の収入をもたらします。いや収入など副次的なことで、ミツバチは生態系の要を担う生物ですから、周辺の農産物の生産を豊かにする効果もあるし、何より教会の子どもたちにもすばらしい共育的効果をもたらします。今後地区・教区の教会に蜂の群を増殖させ、これもまた互助の一助とすることができればと目論んでいます。

このほかにも「のうなんかしょう」の精神で皆さんのアイデアを寄せていただき、教会協力の働きを楽しく豊かに盛り上げていただきたいと思います。

あぐろげいとーん

ところで、この互助通信のタイトル、「あぐろげいとーん」っていったいなんや？とお思いでしょう。また深澤がかっこつけてギリシャ語使いよる、とか言わないでください。「あぐろげいとーん」は確かにギリシャ語です。ただし聖書には出てきません。「アグロス／田舎、野

原、畑」と「ゲイトーン／隣人」は聖書でもおなじみですが、この二つを合成した言葉で、ヨセフスの「ユダヤ古代誌」に出てきます。隣人は隣人でも「田舎の隣人」は「都会の隣人」とは違います。こんな言葉が生まれるということは、古代のギリシャでもそうだったのでしょう。関係が希薄で互いに無関心を装いがちな都会の隣人に比べて、田舎の隣人はその関係自体が財産であり資本だということは先の「里山資本主義」にも明らかです。

互いに分けあい、融通し合い、つながりあう交わりは、田舎ならではのもので、それはわたしたち九州教区に与えられた大切な賜物だと、かつて（もう15年も前ですが）都会の教区にいた者としてもつくづく思われています。この宝、この賜物にますます磨きをかけて、豊かに用いていくのが教会協力委員会に与えられた使命と心得て、働きを担って参りたいと思います。

わたしたちは「あぐろげいとーん（田舎の隣人）」です。その思い、その心意気をもって共に歩いていきましょう。

こがんとば
探したります

そがんとなら
あつとばい

長崎地区平戸伝道所では長く使ってきたエレクトーンがいよいよあやしい状態になってきました。スピーカーからザーザーと風の吹いているような、波が打ち寄せるような音が絶えず聞こえてきます。風も波も強い「島の教会」ですが、そのせいではないようです。

どちらかの教会で**足踏み式のリードオルガン**が余っていたら、是非ご一報ください。取りにうかがいます。お礼は**平戸名物「アゴの干物」**でどうでしょうか。



※上記のような「探してます」あるいは「譲ります」の情報が他にもありましたら委員会までお寄せください。

各地区互助推進担当者 からのメッセージ

北九州地区・東 隆義（田川教会）

北九州地区事業計画の中に「地区内及び教区における教会互助の推進」の項目があります。教会互助推進担当者は地区委員会で選ばれ、地区委員の任期（2年）の間、通常1～2名、場合によっては協力委員をお願いして、「互助推進」の取り組みをしています。地区委員会、地区総会場で現状報告がされています。担当者は地区委員会の役割分担により、交代しますので、担当者の継続性には不安が残ります。

互助推進担当者は、毎年1月の信徒研修会場で、互助献金目標額に対する直近の報告と感謝、「互助」についてのご理解と、ご協力をアピールしています。また、隔年毎に各教会互助担当者に呼びかけて、「教会互助推進の集い（平均出席12名）」を開催して、講師より「教会互助」について学び、各教会の現状や工夫について、懇談の時間を持っています。

す。わずかですが交通費補助もあります。

ここ数年間の『集い』のテーマは【互助は信仰のこと】、【九州教区互助についてもっと知ろう】、【教会間協力と宣教課題—教勢低下状況に挑む】、【互助についてもっと知り学ぼう】、等とわかりやすい講演を頂き、互助の大切さを学びました。互助のことが解って、共に九州教区の伝道を支え分かち合って、恵みの賜物を共感したいと思います。また機構改正により、隔年毎に教区で開催される「地区互助推進担当者会」で配布される文書を各教会・伝道所に送付して、互助のことが解る貴重な資料としてご利用を願っています。参加者ゼロの教会・伝道所をなくすことは、地区の宿題でもありますが、教区からの呼びかけが必要だと思えます。

教区発行の「互助献金納入袋」は使いやすく、積極的な活用が望まれます。毎月コーヒー1杯分（300～400円）程度の献金は、無理なくみんなが力を合わせることができるすばらしい大きなチャンスです。目標額を達成して、共に感謝と喜びを分かち合ひましょう。

教会の十字架に落雷！教会は地域の避雷針？

大分地区・竹田教会の十字架に落雷があり、教会と幼稚園の設備に被害がありました。緊急援助金の申請・執行がなされ、尾崎教師より以下のお便りを戴きました。



2013年7月26日(金)に竹田教会の屋根の十字架に雷が落ちました。教会員、小羊保育園児・職員、近隣の方々に人身事故や火災がなかったのは、救い主が守ってくださったおかげだと思っています。

この落雷で十字架と教会堂のエアコン2基と電話機1個が全破損しました。困り、九州教区教会緊急援助金の申請をさせていただきました。申請が認められ、多額の教会緊急援助金をいただきありがとうございました。このたび、工事を完了しました。教会員一同深く感謝しています。教会の屋根に新しい十字架を設置することができ地域に良い証ができました。また、礼拝堂にエアコンを設置することができ、礼拝を冷房のきいた環境ですることができました。

教区の皆さまに、十字架とエアコンの修復を感謝しつつご報告をいたします。（尾崎明）

互助献金中間報告 (9月27日現在) とさらなるお願い

2013年度も残り半分となりました。

こちらで今年度の互助献金の中間報告をさせていただきます。さらなる奮起をお願いしたいと思います。ごらんのように昨年同月の実績と比べて互助献金額をはじめ、教会数、教師数とも少なくなっています。特に教師互助献金は、九州教区に連なるすべての教師が収入の1%を目標に献げることを教区総会で決めて取り組み続けてきたのですが、近年参加する教師が少なくなっているのを憂慮しています。教会からの互助献金と教師互助献金をとりまとめて送金しておられる場合は教師互助献金も含まれている旨とその金額を事務所にお伝えください。教師互助献金としてカウントされます。

教会緊急援助献金は、商品券によってお献げ頂いたとある信徒の献金を換金したものです。そういうのもありますね。眠っている商品券、探してみてください。

2013年9月27日現在

教会互助献金	2,148,950円	(34教会、教師19名)
教会緊急援助献金	30,000円	

昨年同期


教会互助献金	2,517,375円	(37教会、教師20名)
教会緊急援助献金	7,000円	

新しい互助推進ポスターがざきあがりました！

「小さな教会を現状維持的に支えるのは、もう限界にきている」
などとおっしゃる人もいますが・・・。

九州教区互助献金

ほんとに限界？
自分のことだけで精一杯？


パウロ曰く
 「互いに重荷を担いなさい(ガラテヤ6:2)」
「自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい(フィリピ2:4)」

ここで九州教区の連帯の底力、見せましょうよ

巷ではこんな漫画が話題に・・・
映画にもなりました。

俺はまだ本気 出してないだけ

電外に感謝します。不覚にも涙。by 委員長



九州教区教会協力委員会

左のようなポスターを新しく作りました。実際は多色刷りになります。「何が書いてあるんだらう？」と近寄ってまじまじと見ていただけるようなものを目指し、ごちゃごちゃした文字の多いレイアウトにしてみました。ぜひ教会の目立つところに常時貼りだしていただき、みんなで本気出していきましょう。

編集後記

初めての試みで「互助通信」を発行してみました。教会協力の気運を盛り上げていくために、年数回の発行を目指しています。ご意見や叱咤激励をぜひお寄せください。また投稿も載せたいと思いますので、訴えたいこと、共有したいことがあれば委員会まで原稿をお送りください。(SF)